

陳 情 文 書 表

受 理 番 号 ・ 受 理 年 月 日 及 び 件 名	陳情第28号（5. 10. 10） 済生会兵庫県病院へ神戸市から抜本的支援を行うことを求める陳情
陳 情 の 要 旨	済生会兵庫県病院が、今の岡場で存続できるよう、神戸市は抜本的支援を行うこと。
陳 情 者 の 住 所 及 び 氏 名	神戸市北区 済生会兵庫県病院の存続と充実を求める会 代表 浜 本 宏
送 付 委 員 会	福祉環境委員会

行進を求める
濟生会兵庫県病院へ神戸市からの抜本的支援を求める 陳情

2023年10月10日

神戸市議会議長 坊やすなが様

濟生会兵庫県病院の存続と充実を求める会

代表 浜本 幸三 神戸市北区

陳情趣旨

2023年7月の三田市長選挙では「三田市民病院の神戸市への移転白紙撤回」を公約にした田村克也氏が当選し、「統合再編」を推進した前市長は落選しました。三田市民は「統合再編ノー！」の審判をきっぱり示し、濟生会兵庫県病院と三田市民病院との統合再編計画は新たな段階に入りました。

両病院の再編統合計画は、濟生会兵庫県病院が北神・三田急性期医療連携会議で単独では急性期医療の維持が経営上困難であると表明したことから始まりました。

しかし、三田市側が計画の白紙撤回を表明したことから、統合ありきではなく濟生会病院単独で急性期医療が維持できるよう神戸市の支援を求めるものです。

そもそも三田市民病院は、これまで三田市内の救急患者の6割を受け入れています。統合再編計画では、濟生会兵庫県病院と三田市民病院あわせて現在約560床ある病床数を400～450床に減らすとしています。

病床数が減った新病院では、濟生会兵庫県病院と三田市民病院の二つの病院が受け入れていた救急依頼を従来通り受け入れることは困難になります。救急だけでなく、周産期医療や小児科なども同様です。また濟生会兵庫県病院の病床稼働率は約75%ですが、新病院では90%以上となります。これでは新型コロナのような感染症に対応することができなくなってしまいます。

このような不安をなくし、北神地域の住民が安心して利用できるよう、濟生会兵庫県病院がいまの岡場で存続できるよう、神戸市の支援を求めるものです。

病院への財政支援が自治体への財政負担になると思われるかもしれませんが、しかし、病院への財政支援は税収増につながり、地元の地域経済の好循環に寄与する可能性があるのです。医療経済学の専門家は、100万円が1年間で600万円になるとの費用対効果を報告しています（愈病匡、早稲田大学教授・医療経済学者・医師、「日本再生のためのプランB」著者：9月24日日弁連人権シンポより）。一例として、医療従事者や利用者がスーパーに買い物に行く→スーパーの売り上げが増える→スーパー従業員のボーナスが増える→飲食店での食事、美容院へ行くなど。売り上げが増え、給料も増えることで住民税も増収の好循環が生まれるとされています。

現在の統合再編計画では北区長尾町宅原の土地代に莫大な市民の税金が使われようとしています。道路建設にも税投入が予定されています。そこに使う税金があるなら、それを北区北神地域の住民の健康を守り、地域経済の役にたち、ひいては税収増の可能性のある支援策に変えてください。

陳情項目事項

濟生会兵庫県病院へ神戸市からの抜本的支援を求めること

濟生会兵庫県病院が、今の岡場で存続できるよう、神戸市は抜本的支援を行うこと